

前半：学習状況の整理と英語の基礎 (単語・文法・読み方)

2026.4.1 (水)

今回のテーマ (ねらい)

- 1 「何がわからないか」を言語化して、学習の入口をはっきりさせる
- 2 英語の基本動作（単語→文の骨格→意味取り）を型として身につける
- 3 次回までに回せる小さな学習タスクを3つ作り、継続の土台をつくる

学習状況の整理 (本人の言葉・観察)

- 「英語は読んでも意味が入ってこない」
- 文を見た瞬間に、どこから手をつけていいかわからず止まる
- 単語暗記は“気合い”でやろうとして続かない
- 間違えると一気に自信が下がり、やめたくなる傾向

つまずきの焦点（仮説）

- 語順（SVO）と品詞の感覚が弱く、文の骨格が取れない
- 単語学習が「量・やり方・復習設計」ではなく「気分」になっている
- ミスの原因が、単語不足なのか文法不足なのか読み方不足なのか整理できていない

指導内容（本日のセッション）

1) 英文の読み方：まず“骨格”を取る

- ルール：動詞（V）を探す → 主語（S）を探す → 目的語（O）/補語（C）をつける
- 例文で練習（短文）：
 - ・ I play soccer after school.
 - ・ She likes music.
- 「最初に全部訳そうとしない」「まずは骨格だけでOK」を強調

2) 文法：be動詞と一般動詞の違いを“見分ける”

- まず見分け：
 - ・ be動詞：am / is / are（＝）
 - ・ 一般動詞：play / like / have（＝動き）
- ミスが出やすいポイント：
 - ・ She is play...（×）→ She plays ...（○）
- できたこと：どちらを使う文か、判断が少し速くなった

3) 単語：覚え方を「復習設計」に変える

- ルール：1回で覚えようとするしない
 - 1セット（10語）を
 - ・ Day1：見て言う（日本語→英語）
 - ・ Day2：テスト（日本語→英語）
 - ・ Day4：もう一度テスト
- という形にして“忘れる前提”で回す

本日のフィードバック（良かった点）

- わからないところを「わからない」と言えた（ここが出発点になる）
- 骨格（S/V）を意識すると、意味が取りやすくなる感覚が出た
- 「ミス＝だめ」ではなく「原因を探す材料」として捉え直せた

課題（次に伸ばす点）

- 文の骨格取りを、毎回“反射”でできるようにする
- 単語学習を「気分」から「仕組み」にする（短く・毎日）

次回までの学習タスク（3つ）

- タスク1：単語10語（教科書Unit相当）をDay1実施（10分）
- タスク2：単語10語のDay2テスト（10分）
- タスク3：短文5つでS/Vに下線＋日本語で大意（10～15分）

進め方（目安）

- 4日間で回す（例：金～月）
- 1回10～15分でOK。長時間より短時間×回数を優先

次回の指導予定

- 単語テスト（定着確認）
- S/V判定のスピードUP（10問ミニ演習）
- 疑問文・否定文（Do/Does）に接続（つまずきが出る場合は基礎に戻る）